

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第5号について

本県のアボカドにおいて、キイロワタフキカイガラムシ *Icerya seychellarum* (Westwood), マツウラコナカイガラムシ *Pseudococcus odermatti* Miller&Williams とヤシシロマルカイガラムシ *Hemiberlesia lataniae* (Signoret) の発生が認められ、特殊報第5号を発表したので送付します。  
なお、病害虫防除所ホームページ (www.jppn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

## 病害虫発生予察 特殊報第5号

平成31年3月14日  
鹿児島県病害虫防除所

- 1 病害虫名**  
キイロワタフキカイガラムシ *Icerya seychellarum* (Westwood)  
マツウラコナカイガラムシ *Pseudococcus odermatti* Miller&Williams  
ヤシシロマルカイガラムシ *Hemiberlesia lataniae* (Signoret)
- 2 寄主植物名** アボカド *Persea americana* Mill (クスノキ科)
- 3 発生地および同定**
  - (1) 発生確認 平成31年1月
  - (2) 発生確認地域 日置市
  - (3) 同定機関 門司植物防疫所
- 4 発生状況**  
施設栽培アボカドほ場の葉、枝等に寄生が認められる。これら国内既発生害虫のアボカドでの寄生は国内初確認である。
- 5 病害虫の特徴**
  - (1) キイロワタフキカイガラムシ (図1)
    - ア 形態  
雌成虫は楕円形で体長は4~6mm程度である。脚と触角は黒色、体色は橙黄色で、鮮黄色~白色のロウ物質に厚く覆われ、体周縁部ではこれが房状となる。このほか、背面全体に絹糸状の長いロウ物質が混ざる。
    - イ 寄主植物  
ウルシ科 (マンゴー), クスノキ科 (アボカド), ソテツ科 (ソテツ), ミカン科 (カンキツ類), ヤシ科 (ヤシ類) 等、極めて多食性である。特にソテツに多い。
    - ウ 被害  
虫体は葉裏、若枝、果梗、果実等に見られ、葉では葉脈に沿って寄生していることが多い。口吻を植物体に差し込み栄養分を吸収し、衰弱させる。発生が多いと株全体を枯死させることもある。また、本種が排泄した甘露にすす病が誘発され、葉の光合成能力低下や果実の品質低下を招く。さらに本種の分泌する綿状及びガラス繊維状のロウ物質が排泄物とともに付着し果実の外観を悪くする。
    - エ 分布  
熱帯・亜熱帯地方に広くみられ、日本では四国、九州、南西諸島に分布する。
  - (2) マツウラコナカイガラムシ (図2)
    - ア 形態  
虫体は楕円形で体周のロウ突起は17対、尾端の突起が最も長く、体長の半分程度である。背面には1対の暗色縦条線が認められる。黒色の地肌が透けるため、2対の黒斑があるように見える。
    - イ 寄主植物  
ウコギ科 (ヤツデ), カキノキ科, サトイモ科 (アグラオネマ), トベラ科, バンレイシ科, ミカン科 (カンキツ) 等、多食性である。
    - ウ 被害  
葉、枝、果実等を加害し、植物体を衰弱させる。また甘露によりすす病を発生させる。
    - エ 分布  
日本、中国、インド、ハワイ、アメリカ、バハマ、ベリーズ、コスタリカ

(3) ヤシシロマルカイガラムシ (図3)

ア 形態

雌の介殻は淡黄褐～灰白色，円形～広楕円形で大きさは1.5～2.0mmである。背面は隆起し，殻点是一方に偏在する。虫体は黄色である。雄はみられず，単為生殖を行う。

イ 寄主植物

ウルシ科 (マンゴー)，クスノキ科 (アボカド)，クワ科 (クワ)，ソテツ科 (ソテツ)，ツバキ科 (チャ)，フトモモ科 (バンジロウ)，ミカン科 (カンキツ類)，ヤシ科 (ヤシ類) 等，極めて多食性である。

ウ 被害

枝，果実，葉に寄生し，多発すると樹勢を衰えさせると考えられる。年間を通じて幼虫から成熟成虫まで各段階のものがみられる。

エ 分布

熱帯，亜熱帯に広くみられ，日本では九州南部，南西諸島，八丈島，小笠原に分布する。

## 6 防除対策

- (1) 現在，登録農薬はないため早期発見に努め，発生を確認した場合には，やわらかいブラシ等で擦り落とすか，寄生葉，枝等を除去処分する。
- (2) 苗を導入する場合は，寄生に十分注意する。

## 7 参考文献等

(1) キイロワタフキカイガラムシ

河合省三 (1980) 日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会. 88pp

鹿児島県病害虫防除所 (2015) 平成27年度病害虫発生予察特殊報第1号

梅谷献二・岡田利承編 (2003) 日本農業害虫大辞典. 全国農村教育協会. 150pp.

翁振宇・陳淑佩・吳文哲編 (2013) 臺灣進口植物農産品検出介殼蟲圖鑑. 行政院農業委員會農業試験所. 120-121pp

(2) マツウラコナカイガラムシ

Dougllassr. Miller and Douglasj. Williams (1997) A new species of mealybug in the genus *Pseudococcus* (Homoptera: Pseudococcidae) of quarantine importance. ENTOMOL. SOC. WASH99 (2). 305-311pp

(3) ヤシシロマルカイガラムシ

河合省三 (1980) 日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会. 222pp

山口卓宏ら (2000) 奄美群島で発生が確認されたマンゴーのカイガラムシ類. 九病虫研会報 (46) 132-135pp

翁振宇・陳淑佩・吳文哲編 (2013) 臺灣進口植物農産品検出介殼蟲圖鑑. 行政院農業委員會農業試験所. 74-75pp



図1 キイロワタフキカイガラムシ (A:葉での寄生状況, B:雌成虫)

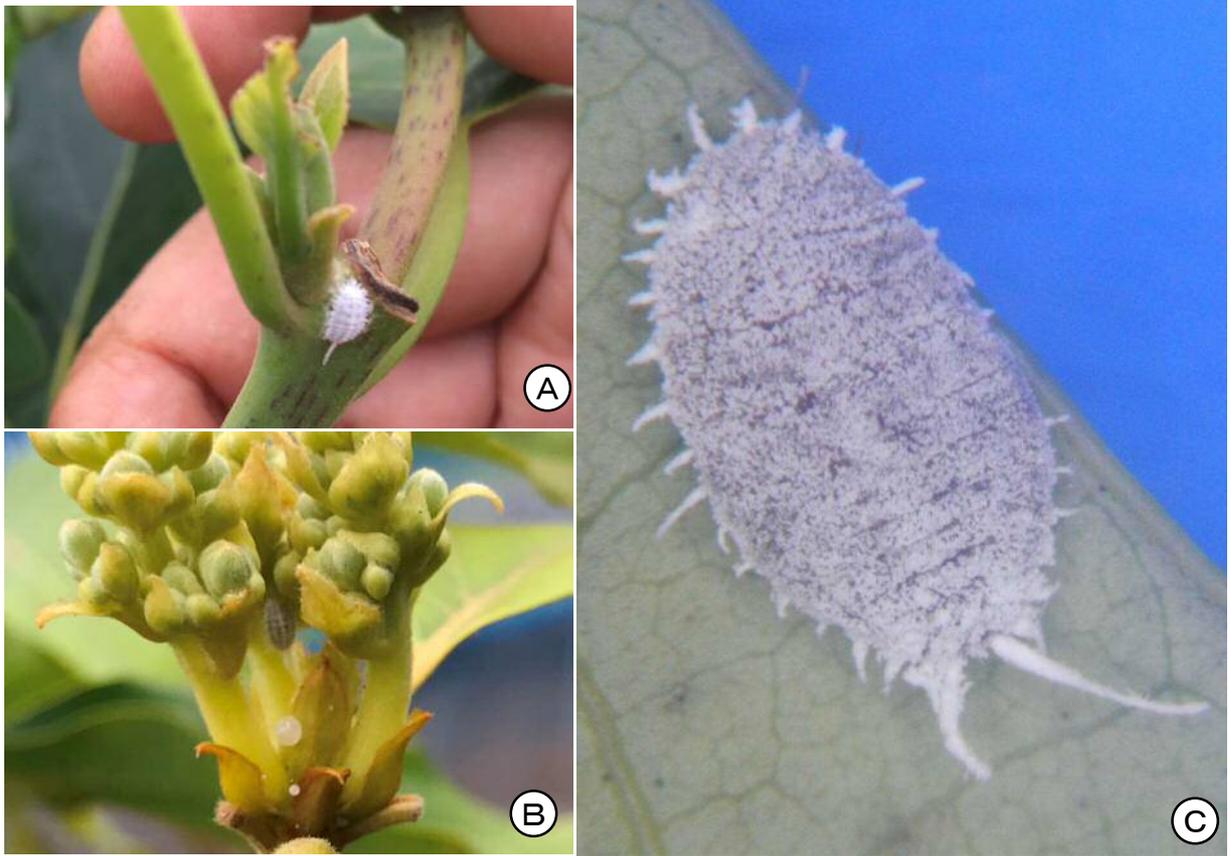


図2 マツウラコナカイガラムシ (A:枝への寄生, B:花穂への寄生と甘露, C:雌成虫)

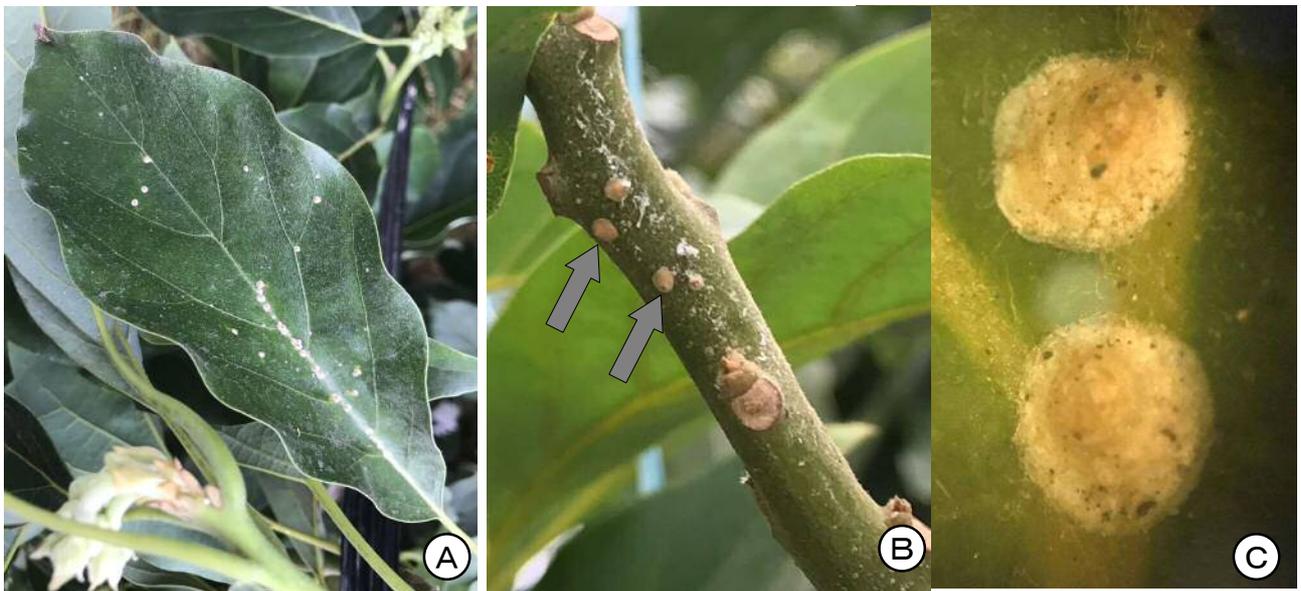


図3 ヤシシロマルカイガラムシ (A:葉の寄生, B:枝の寄生, C:雌成虫)